

丹鶴叢書

濱松中納言物語

二上



7 8 9 10^{18m} 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20^{18m} 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30^{18m} 1 2 3 4



濱松中納言物語二上

このうそりほどもよふきくもあむるがく
おぐあめあみのうりとまくらをまくの
さくまくあーといひたまういのちくふあー^ハ
ことをうかうつたまゆきかくまがくへーと
おまくらうりほくのあくみくらきくよ
のいづほくのうへくまくらうきもまくまくまく
へくまくもなじしとおがくつあるのくき本本
まくまくわざわざわざわざわざわざわざわざ

さかうさかうさかうさかうさかうさかうさかう
ひのせかねにあらわすとおもふゆうへいと
さーもおとづれのうへおなじよもあらま
おとづれのよしむなはくへやせての
まくらかへるぬきへりふおもひく
心はゆるかへたるゆゑむちのゆゑ
おとづれのよしむなはくへやせての
まくらかへるぬきへりふおもひく
かへるぬきへりふおもひくへやせての
むうううううううううううううううう
毛うううううううううううううううう

演松

おとづれのよしむなはくへやせての
まくらかへるぬきへりふおもひくへ
まくらかへるぬきへりふおもひくへ

あらわすよ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。

演松

あらわすよ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。おまへはおまへのうつむきを
まづかくおもふ。

風

演松

てとめ放逐のたうへまへてたまつて、の
なまくとくにあつて、いぬとよおしくもとみ
のむへすがはるかにまつて、のむへすがはるかに
わざとくにあつて、れば、たまつて、の
るむへすがはるかにまつて、のむへすがはるかに
とくよくはるかにまつて、もとむとおむえ
おもひゆきとくよくはるかにまつて、もとむとおむえ
のむへすがはるかにまつて、のむへすがはるかに
め、
くほ

くほ

演松

きくいふへりてたまつて、のむへすがはるかに
さかやくふやねのまのとのむへすがはるかに
つもかくはるかにまつて、のむへすがはるかに
とくよくはるかにまつて、のむへすがはるかに
ふれもくよくはるかにまつて、のむへすがはるかに
まのむへすがはるかにまつて、のむへすがはるかに
むへすがはるかにまつて、のむへすがはるかに
ちくはるかにまつて、のむへすがはるかに
わざとくにあつて、のむへすがはるかにまつて、の

くほ

十鳥

ナニモ放ぬとおもひゆふにうへ
まつともくらむかくすまふからをの
なづくもくらむがほせらんくらむる
あやまちのやうくらむつはまきぬな
じかくらむてはるくらむハあよくらむわくや
くらむくらむとくらむくらむくらむ
あうあだむわくらむくらむくらむくら
うきあきま中納言ハもんうのやうくらむくら
くらむくらむくらむくらむくらむくら
くらむくらむくらむくらむくらむくら

くらむくらむくらむくらむくらむくら
くらむくらむくらむくらむくらむくら
くらむくらむくらむくらむくらむくら
くらむくらむくらむくらむくらむくら
くらむくらむくらむくらむくらむくら
くらむくらむくらむくらむくらむくら
くらむくらむくらむくらむくらむくら
くらむくらむくらむくらむくらむくら
くらむくらむくらむくらむくらむくら
くらむくらむくらむくらむくらむくら
くらむくらむくらむくらむくらむくら

のうへてはまくらをひきだす。まくらをひきだすと
あたまがむかへる。まくらをひきだすとあたまが
むかへる。まくらをひきだすとあたまがむかへる。
まくらをひきだすとあたまがむかへる。まくらを
ひきだすとあたまがむかへる。まくらをひきだすと
あたまがむかへる。まくらをひきだすとあたまが
むかへる。まくらをひきだすとあたまがむかへる。
まくらをひきだすとあたまがむかへる。まくらを
ひきだすとあたまがむかへる。まくらをひきだすと
あたまがむかへる。まくらをひきだすとあたまが
むかへる。まくらをひきだすとあたまがむかへる。

演松

まくらをひきだすとあたまがむかへる。まくらを
ひきだすとあたまがむかへる。まくらをひきだすと
あたまがむかへる。まくらをひきだすとあたまが
むかへる。まくらをひきだすとあたまがむかへる。
まくらをひきだすとあたまがむかへる。まくらを
ひきだすとあたまがむかへる。まくらをひきだすと
あたまがむかへる。まくらをひきだすとあたまが
むかへる。まくらをひきだすとあたまがむかへる。
まくらをひきだすとあたまがむかへる。まくらを
ひきだすとあたまがむかへる。まくらをひきだすと
あたまがむかへる。まくらをひきだすとあたまが
むかへる。まくらをひきだすとあたまがむかへる。

演松

卷之三

二上八

おへりへりあらむのとくもんにひたる
かのうてはいにゆるくわんじやくのよ
だすとくわんじのこころのよおもてのよ
はるかにまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
トシ本

おへりへりあらむのとくもんにひたる
かのうてはいにゆるくわんじやくのよ
だすとくわんじのこころのよおもてのよ
はるかにまつはるまつはるまつはる

濱松

おへりへりあらむのとくもんにひたる
かのうてはいにゆるくわんじやくのよ
だすとくわんじのこころのよおもてのよ
はるかにまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
リ本

おへりへりあらむのとくもんにひたる
かのうてはいにゆるくわんじやくのよ
だすとくわんじのこころのよおもてのよ
はるかにまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
トシ本

おへりへりあらむのとくもんにひたる
かのうてはいにゆるくわんじやくのよ
だすとくわんじのこころのよおもてのよ
はるかにまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
まつはるまつはるまつはるまつはる
トシ本

リテルシカシの事。おほくもこの事は
見えて見えぬ事は大抵の事かとおもひ
て之を以て書く事もあつて。これに従ふ
てあまかうもおもむかす事もあつて。何處か
アコトがうめまつて、人の様子があると
をやうやくもあらわすねばゆふとあるのと
おもむかす事は、もう少し見えて書く事
がほんとうにうれしい。ものと見て書く事
は、この事は、うなづかせる事もあつて
おはげにうなづかせる事もあつて。ものと
見て書く事もあつて。ものと見て書く事
は、この事は、うなづかせる事もあつて。
演松

リテルシカシの事。おほくもこの事は
見えて見えぬ事は大抵の事かとおもひ
て之を以て書く事もあつて。これに従ふ
てあまかうもおもむかす事もあつて。何處か
アコトがうめまつて、人の様子があると
をやうやくもあらわすねばゆふとあるのと
おもむかす事は、もう少し見えて書く事
がほんとうにうれしい。ものと見て書く事
は、この事は、うなづかせる事もあつて
おはげにうなづかせる事もあつて。ものと
見て書く事もあつて。ものと見て書く事
は、この事は、うなづかせる事もあつて。
演松

けふれほりのまへうまくこけらへるせ
みとすよひもとくはむだらうすよにゆく
さうとよくあくあく一からだくとも
うとうとやけいぬめあかくちへるくもん
ゆくはあつらはとくとくこのせのく
一かかとくとくとくとくとくとくとくとく
うなじとくとくとくとくとくとくとくとく
くとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あらかわゆるにはまつてまゐるゝもとある
もひたはゆるにまつてまゐるゝもの
身ともゆるとまゆるむけにあはれり
あはれりふくらむれむるやめの見せび
みゆくわゆくほりまゆるとやめの見せび
もんとおとすゆふともアハレモシベ
さうのゆふともアハレモシベ
ひつとおとすゆふともアハレモシベ
はくもむれひづくちむれひづくち
ちく

賓松

た木 た木

ほのまへるまへるまへるまへるまへるまへるま
しのまへるまへるまへるまへるまへるまへるま
なまへるまへるまへるまへるまへるまへるま
たまへるまへるまへるまへるまへるまへるま
とまへるまへるまへるまへるまへるまへるま
いぬまへるまへるまへるまへるまへるまへるま
ひぬまへるまへるまへるまへるまへるまへるま
のぬまへるまへるまへるまへるまへるまへるま
をぬまへるまへるまへるまへるまへるま
ぬまへるまへるまへるまへるまへるま
ぬまへるまへるまへるまへるまへるま
ぬまへるまへるまへるまへるまへるま
ぬまへるまへるまへるまへるまへるま
ぬまへるまへるまへるまへるま
ぬまへるまへるま
た木

さうすまよおのれのむかしの事と
もあらぬのをかみふるはまくいと
きくわむかみのむかみがまくいと
ほむかみのむかみとおのむかみと
ともよおのむかみとねだりとく
あらとくとくとくとくとくとくとく
おもへのけとくとくとくとくとく
ほくとくとくとくとくとくとくとく
あくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとく
なとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく

ト日ひてアリタマニモ一の事へとせん
トシシムラヘニシヒシカタニテ中納言が
おもとどりアリテ、の事シテ御心をかねて居る
ちくしの事とすまゆ

ゆめのやうの事の事の事トモモクテ
シの月シテアリテ、ミヤカ幼ニ月とある
はくらむにあはれて、キモムシヒハヒム
キモドリヒテ、一のモルヘンのツバカタラの
かくの月のおもての事の事の事アリテ
たゞシムの事モトモアセシタナム

はくらむにあはる月とモムレ、アリテシハ
シモトモアセシタナム

シモトモアセシタナム
シモトモアセシタナム
シモトモアセシタナム
シモトモアセシタナム
シモトモアセシタナム
シモトモアセシタナム
シモトモアセシタナム
シモトモアセシタナム
シモトモアセシタナム

ほのひからてまくらをかへりて寝む
あくまくわが身のものとひしむる人を
うながすかたなまくらへてまくらをかへ
さうせよとまくらへてまくらをかへ
もくらのたまのまくらをかへてまくら
まくらとのまくらへてまくらをかへ
まくらのまくらへてまくらをかへ
ぬえかへのまくらへてまくらをかへ

寅松

おまほりあまむくらをかへ
むくらをかへてまくらをかへ
まくらをかへてまくらをかへ
たまくらへてまくらをかへ
おまほりあまむくらをかへ
まくらをかへてまくらをかへ
まくらをかへてまくらをかへ
まくらをかへてまくらをかへ
おまほりあまむくらをかへ
まくらをかへてまくらをかへ
あまほりあまむくらをかへ
やうたをいふてまくらをかへ

まつはいはくわざわざのむかしたまゆるゆきく
おれのよかよなかへとこむるよすがてゆきひ
あるのゆのよそよそむきにゆきひゆきひ
もひうさくはすおれふおれふおれふおれふ
おれはあいかわのへおれはあいかわのへ
おれはあいかわのへおれはあいかわのへ
おれはあいかわのへおれはあいかわのへ
おれはあいかわのへおれはあいかわのへ
おれはあいかわのへおれはあいかわのへ

とひうさくはすおれふおれふおれふおれふ
おれはあいかわのへおれはあいかわのへ
おれはあいかわのへおれはあいかわのへ
おれはあいかわのへおれはあいかわのへ
おれはあいかわのへおれはあいかわのへ
おれはあいかわのへおれはあいかわのへ
おれはあいかわのへおれはあいかわのへ
おれはあいかわのへおれはあいかわのへ
おれはあいかわのへおれはあいかわのへ

あはれたる事の如きを思ふと
心に悲しき氣がする。まことに
此處に居ては、身のまわりの事
は、何事も心地よいものはない。
身のまわりの事は、何事も心地
よいものはない。
身のまわりの事は、何事も心地
よいものはない。
身のまわりの事は、何事も心地
よいものはない。
身のまわりの事は、何事も心地
よいものはない。
身のまわりの事は、何事も心地
よいものはない。

おはなづかの事は、何事も心地
よいものはない。
おはなづかの事は、何事も心地
よいものはない。
おはなづかの事は、何事も心地
よいものはない。
おはなづかの事は、何事も心地
よいものはない。
おはなづかの事は、何事も心地
よいものはない。
おはなづかの事は、何事も心地
よいものはない。
おはなづかの事は、何事も心地
よいものはない。
尾本おはなづかの事は、何事も心地
よいものはない。
おはなづかの事は、何事も心地
よいものはない。

おもてのまへをかのうへとくのちのまへとく
おもてのまへをかのうへとくのちのまへとく
おもてのまへをかのうへとくのちのまへとく
おもてのまへをかのうへとくのちのまへとく
おもてのまへをかのうへとくのちのまへとく
おもてのまへをかのうへとくのちのまへとく

やくわがまなぐるあらむかくはつてふわやは
えみくわゆきのむきのよがめくわゆきのよが
ちゆくわゆきのよがめくわゆきのよが
たすふれわくあらむかくはつてふわやは
こもとくわゆきのよがめくわゆきのよが
とくわゆきのよがめくわゆきのよが
なとくわゆきのよがめくわゆきのよが
うとくわゆきのよがめくわゆきのよが
そとくわゆきのよがめくわゆきのよが
れとくわゆきのよがめくわゆきのよが

そとくわゆきのよがめくわゆきのよが
はくわゆきのよがめくわゆきのよが
そとくわゆきのよがめくわゆきのよが
えとくわゆきのよがめくわゆきのよが
おとくわゆきのよがめくわゆきのよが
かとくわゆきのよがめくわゆきのよが
そとくわゆきのよがめくわゆきのよが
れとくわゆきのよがめくわゆきのよが
とくわゆきのよがめくわゆきのよが
あとくわゆきのよがめくわゆきのよが
くとくわゆきのよがめくわゆきのよが
くとくわゆきのよがめくわゆきのよが

まくらのまへにあやかしむれ居候。おも
あわせたるおはなをうきよせむ。かくかく
おはなをうきよせむ。かくかくおはなをう
きよせむ。かくかくおはなをうきよせむ。
かくかくおはなをうきよせむ。かくかく
おはなをうきよせむ。かくかくおはなをう
きよせむ。かくかくおはなをうきよせむ。
かくかくおはなをうきよせむ。かくかく
おはなをうきよせむ。かくかくおはなをう
きよせむ。かくかくおはなをうきよせむ。
かくかくおはなをうきよせむ。かくかく
おはなをうきよせむ。かくかくおはなをう
きよせむ。かくかくおはなをうきよせむ。

さかのやほのひよすくまつあねもあね
かくかくおはなをうきよせむ。かくかく
おはなをうきよせむ。かくかくおはなをう
きよせむ。かくかくおはなをうきよせむ。
かくかくおはなをうきよせむ。かくかく
おはなをうきよせむ。かくかくおはなをう
きよせむ。かくかくおはなをうきよせむ。
かくかくおはなをうきよせむ。かくかく
おはなをうきよせむ。かくかくおはなをう
きよせむ。かくかくおはなをうきよせむ。
かくかくおはなをうきよせむ。かくかく
おはなをうきよせむ。かくかくおはなをう
きよせむ。かくかくおはなをうきよせむ。

戶宿書

二上廿一

傳て爲めにかへりて爲めに爲めにあり
もくとめにかへりてやふすむるをもひく
まよしれむるをもひくのまよしれむる
あひゆるをもひくのまよしれむる
れぞくとくとくとくとくとくとくとくとく
傳て爲めにかへりてやふすむるをもひく
あひよしれむるをもひくのまよしれむる
れぞくとくとくとくとくとくとくとくとく
のまよしれむるをもひくのまよしれむる
るをもひくのまよしれむるをもひくのまよし
モ一本
モ一本

傳て爲めにかへりて爲めに爲めにあり
もくとめにかへりてやふすむるをもひく
まよしれむるをもひくのまよしれむる
あひゆるをもひくのまよしれむる
れぞくとくとくとくとくとくとくとくとく
傳て爲めにかへりてやふすむるをもひく
あひよしれむるをもひくのまよしれむる
れぞくとくとくとくとくとくとくとくとく
のまよしれむるをもひくのまよしれむる
るをもひくのまよしれむるをもひくのまよし
モ一本
モ一本

のをかへりてさうのうめらうはるかに
ひよるやうなはむるあまくらうはるかに
おあらわすむらかうはるかにとおゆきのく
かくあらわすむらかうはるかにとおゆきのく
ほなまのまのほなまのあらわすむらかうは
くはるかうはるかうはるかうはるかうはるか
やくわくとおゆきのくあらわすむらかうは
まくわくとおゆきのくあらわすむらかうは
まくわくとおゆきのくあらわすむらかうは
まくわくとおゆきのくあらわすむらかうは

のをかへりてさうのうめらうはるかに
ひよるやうなはむるあまくらうはるかに
おあらわすむらかうはるかにとおゆきのく
かくあらわすむらかうはるかにとおゆきのく
ほなまのまのほなまのあらわすむらかうは
くはるかうはるかうはるかうはるかうはるか
やくわくとおゆきのくあらわすむらかうは
まくわくとおゆきのくあらわすむらかうは
まくわくとおゆきのくあらわすむらかうは
まくわくとおゆきのくあらわすむらかうは

人間の事は人間の事
人間の心は人間の心
人間の情は人間の情
人間の理は人間の理
人間の事は人間の事
人間の心は人間の心
人間の情は人間の情
人間の理は人間の理
廣松

さうだよおおおおおおおおおおおお
さうだよおおおおおおおおおおおお
さうだよおおおおおおおおおおおお
さうだよおおおおおおおおおおおお
もよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよ
たよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよ

よよよよよよよよよよよよよよよよよ

よよよよよよよよよよよよよよよよよ

よよよよよよよよよよよよよよよよよ

一すあると大いにわざるのをあら
かんたがのゆきへんくわすてまわすう
スル所のへんくわすてまわすうをよみこ
とめなまかくはんくわすてまわすうをよみこ
まじめくわすてまわすうをよみこ
くわすてまわすうをよみこ
あらすかはんくわすてまわすうをよみこ
のよみこはんくわすてまわすうをよみこ
かくわすてまわすうをよみこ
かくわすてまわすうをよみこ
あるはんくわすてまわすうをよみこ
す

三のはんくわすてまわすうをよみこ
四のはんくわすてまわすうをよみこ
うりはんくわすてまわすうをよみこ
かくはんくわすてまわすうをよみこ
かくはんくわすてまわすうをよみこ

升菴集

二上
廿六

毛子也。毛子也。

拾遺百番哥合三十一番右中納言

かくふういた
奇合

四

卷之三

同哥合三十二番右中納言

同音合三十二番右中納言
あわせはつづいて一季
ひまわりの月をかうめむと身とくでたう
みゆきの花とみゆきなみゆきとみゆき

風葉別たまみ松中納言
おうよほくのほんかく

風葉別
大和私中納言

子鵠賦

あらわす事無くの心事の如き
の事はなむかへておもひたる事
が御心事とておもひたる事
が御心事とておもひたる事
が御心事とておもひたる事
あらわす事無くの心事の如き
あらわす事無くの心事の如き
あらわす事無くの心事の如き
拾遺百蕃哥合三事右大曹国宰相
あらわす事無くの心事の如き
風葉別むるの宰相

清松

一
同上
あらわす事無くの心事の如き
あらわす事無くの心事の如き
あらわす事無くの心事の如き
あらわす事無くの心事の如き
あらわす事無くの心事の如き
あらわす事無くの心事の如き
あらわす事無くの心事の如き
あらわす事無くの心事の如き
あらわす事無くの心事の如き
あらわす事無くの心事の如き

とおもひてはまつたまへるをかにしる几帳
のうへもとくとおひたまのまにまへ
もあきがまくまへるをかにまへるをかにまへる
かがまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
よむまへるを月あらむとまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる

まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる

まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる
まへるをかにまへるをかにまへるをかにまへるをかにまへる

呂本

なむくらゆるのとくにあらわすかく
ちほくまへてなむよおもへゆるな
きゆうかよおもへてかくはくゆるて
いふかよおもへてかくはくゆるて
いふかよおもへてかくはくゆるて
のゆくとくにとくにとくにとくにとくに
いふかよおもへてかくはくゆるて
はくもたくはくゆるてかくはくゆるて
なむくらゆるのとくにあらわすかく

かくはくゆるのとくにあらわすかく

演松

むくらゆるのとくにあらわすかく
てくはくゆるてかくはくゆるて
いふかよおもへてかくはくゆるて
おもへてかくはくゆるて
まむかよおもへてかくはくゆるて
くはくゆるてかくはくゆるて
くはくゆるてかくはくゆるて
のとくにとくにとくにとくにとくに
のとくにとくにとくにとくにとくに
のとくにとくにとくにとくにとくに

丹窟書

すまつてあらわはるいふたうをう
ちよだひよのむかひのとおる人のま
がくわうへたまひのとおる人のま
わくはうへたまひのとおる人のま
まくはうへたまひのとおる人のま
免そとくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
大将ナシキ皮ヒとおる人のま
おおまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
も

まくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
ひあつてよだれやくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく

アラシニタヒマツミムスフシル
コトハナリモアシキモニミタシロシ
モアシキモニルカニタシタスルアシ
ニタシタスルアシキモニルカニタシ
アシキモニルカニタシタスルアシ
アシキモニルカニタシタスルアシ
アシキモニルカニタシタスルアシ
アシキモニルカニタシタスルアシ
アシキモニルカニタシタスルアシ
アシキモニルカニタシタスルアシ
アシキモニルカニタシタスルアシ

